

平成27年4月23日参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 次世代の党の松沢成文です。

何か議論を聞いていると、また国旗・国歌問題やりたくなくなっていました。まあ様々な見解の違いがあるんだなという感想を持ちました。

今日は、私は、オリンピックの競技会場の問題について幾つか質問をさせていただきます。

昨年十月の当委員会で、二〇二〇年東京オリンピックのゴルフ競技会場の選定について私は質問をいたしました。その中で、当初予定されていた東京都が所有するパブリックコース、若洲ゴルフリンクスから、プライベートコースである埼玉県霞ヶ関カントリー倶楽部に変更される際の選考過程が不透明であることや、その際の基準が不合理に定められていることなどを、問題点を指摘したわけでありました。その後、競技会場については、都と大会組織委員会でコスト面やあとレガシーの面での観点から再検討が行われてきております。

二〇二〇年の東京オリンピックのゴルフ競技会場については、本年二月のIOCの理事会へ霞ヶ関のまま報告し了承されていますけれども、これをもって最終的に確定したものと考えていらっしゃるのでしょうか。オリパラ担当大臣としてお願いします。

○国務大臣（下村博文君） 二〇二〇年東京オリンピックでのゴルフ競技会場につきましては、組織委員会が御指摘のように霞ヶ関カントリー倶楽部として決定した上で、今年二月のIOC理事会において報告し了承を得たと聞いております。

したがって、この手続によりまして、ゴルフ競技会場については確定したというふうに認識をいたします。

○松沢成文君 これ、今確定したという、IOCの了承を得た会場と、これからまだ調査というか引き続き調整を進める会場、分かれていますけれども、私の認識は、これ、ロスのオリンピックもリオのオリンピックも、IOCと組織委員会で合意したと、でも、その後、様々、コスト面とかあるいは国民の声とかいろんな状況変化で、やっぱりここはこういう形に変えたいと主催都市からの申出があったりして変わっている事実もあるので、私はこれから会場変更は決して不可能ではないと、一応方向性は出ていますけれどもね、そう考えています。

そこで、大臣、日本ゴルフ改革会議という団体があるんですが、大臣御存じかどうか。この団体は、今後のゴルフという競技の発展のた

めに中立的な立場で客観的に改革案を提示していこうという団体で、評論家の大宅映子さんが議長を務めていまして、副議長はキャスターの蟹瀬誠一さんですとかこういう方々、あるいは国会議員のゴルフ議連の名誉会長さん、衛藤代議士なんかも入っているんですね。私もメンバーに入っています。

この会議で、極めて中立的に客観的に霞ヶ関と若洲の調査、比較をやったのがこの表なんですね。皆さん、ゴルフをやらない方はちょっと分かりづらいかもしれませんが、大臣は両方のコースを一度ずつ回られたことがあるというので少し想像が付くと思うんですけども。

まず、これ見ていただくと、運営に関する評価でも、例えばテレビやメディアクルーの宿泊施設、選手の宿泊施設、こういうのを見ても圧倒的に若洲の方が便利ですよ。霞ヶ関は、一時間半車で行かなきゃいけませんし、近くにホテルはありませんので東京近辺から通わなきゃいけない。移動の手段も大変厳しくなります。ギャラリーの収容人数なんですけど、これは若洲でやったとしても、最近は仮設スタンドをたくさん造れますから、かなり対応可能なんです。

二ページ目を見てください。ここが競技に関する評価でありまして、ここはさすがに名門霞ヶ関カントリー倶楽部ですから、霞ヶ関の評価は若洲よりも高いです。練習場あるいはコースの難易度を見ていただければ分かると思います。

三ページ目なんですけれども、これが五輪に対する評価ということで、やはり会場はパブリックであるべきだと、それがレガシーにつながる。プライベートのクラブというのは、その後一般の人だけでは使えませんので、やはりゴルフ競技を見てジュニアたちが、自分もゴルフを目指したい、オリンピックをやったあの若洲でプレーをしたい、これができるというパブリックコースというのは大変重要だというふうに思いますし、まあその辺りのことが様々書いてございます。ゴルフのレガシー度などもありますし、また、コンパクトなオリンピックのコンセプトに合致するのはどちらかというと、これは当然のごとく、選手村から四キロというところにあるパブリックコースの若洲の方がコンパクトになるということですね。

最後のページは、東京らしさに対する評価でございます。それと、ここに関係しますが、やはり霞ヶ関カントリー倶楽部、真夏の八月に大会をやります。埼玉県の夏の暑さというのはもう四十度を超えます。これは、選手だけじゃなくてギャラリーの方も含めて熱中症でかなり厳しい思いをするでしょう。一方、若洲の方は、周りが海ですので海

風が吹いて、恐らく五度ぐらい違うと思うんですね。こういうコンディションも考えても、やはり圧倒的に若洲の方が私は、夏のオリンピックをやる、またレガシーを残すとしたら好ましいと思っていて、一番そのページの下の表に、それぞれ競技に関する評価、運営、あるいは五輪に関する評価、東京らしさに関する評価ということで、競技に関しては霞ヶ関に若干利がありますが、運営やあるいは五輪、東京らしさという意味ではやっぱり圧倒的に若洲がいいのではないかと。ゴルフの専門家の団体もこのように評価を付けているんです。

まず、大臣、これ、この評価表を見て御感想はいかがでしょう。

○国務大臣（下村博文君） 私は、この日本ゴルフ改革会議というのはちょっと存じ上げていないものですから、どんな組織構成で、どの程度の影響力のある団体かどうかも存じ上げておりません。

今まで松沢委員がこのことについては国会で質問されておられましたから、私も東京都を含めいろんな関係者にこのことについてはいろいろ聞いておりますが、皆さんが、若洲は場所はいいけど、やっぱりいろんないざやるとなると課題が非常に多いので、物理的にやるのは難しいのではないかという、私が聞いている範囲内では慎重な方々の意見の方がやっぱり圧倒的に多くて、是非、霞ヶ関に決まりつつあるけれども若洲の方に変えるべきだということを、これは最初に質問されたときの直後の話ですけれども、そういう話は実際は私の聞いている範囲内では特になかったという経緯がございます。

そういう中で、組織委員会等がいろんな調査をした結果を踏まえて、先ほど申し上げたように、今年二月のIOCの理事会で霞ヶ関カンツリー倶楽部でということで報告をしたのではないかというふうに思います。

○松沢成文君 大臣、実はこのゴルフ改革会議の皆さんは、舛添知事にもこの表も含めて説明に行っているんです。そうしましたら、舛添知事の顔色がかなり変わりました、これはちょっと再検討しなきゃ大変だなという認識に変わったそうであります。特に、夏が物すごく暑くて霞ヶ関は厳しいなという面だけではなくて、やっぱりレガシーの問題、コストの問題含めてこれは再検討が必要ではないかという認識になっているらしいんですね。それで、実は組織委員会の委員長の森先生もこの比較表を見まして、いや、これは若洲の方がいいなというふうにも感想を漏らしているらしいんです。

私はちょっとうがった見方していますがけれども、この霞ヶ関にある意味で強引に持っていったのは、確かに客観的な評価をしたというふ

うに表上なっていますけれども、私は、やっぱり一部のゴルフ関係者の方が、日本の一番有名な霞ヶ関を世界でやっぱり有名なゴルフ場にしていきたいという、かなりそういう思いがあって霞ヶ関に強引に持っていったというふうに私には見えるんですね。

何度も申し上げますけれども、これ、リオのオリンピックも実はリオデジャネイロ市内に二つのプライベートクラブがあって、そのうちの一つでオリンピックをやることが決まっていたんです。ただ、その後、市民からの声あるいは組織委員会の中でも、やっぱりオリンピックをやるとしたらパブリックでやるべきだと。パブリックでやって、そこでその後もレガシーとして残って市民がプレーをする、あるいはジュニアがそこから育っていくことによってオリンピックをやった価値が後世につながっていくということで、リオではわざわざパブリックコースを増設して、プライベートではやめてパブリックに変えているんですね。

ところが、東京は、若洲ゴルフリンクスという十分大会をできるパブリックコースがあるにもかかわらず、一部のゴルフ関係者のある意味で思惑で、日本でも有名なプライベートの霞ヶ関にどうにか持っていこうということで、ここまで私は動きが出てきているというふうに思っています、大臣にお願いしたいのは、舛添知事もこれはもう一回検討しなきゃいけないという気持ちになっていまして、森組織委員長もこれは若洲の方がいいなと感想を漏らしているわけでありまして、これ、オリンピック・パラリンピック担当大臣としてもう一度、都知事やあと組織委員長とも、この表も含めてこのままで本当にいいのかということをお確認、御相談いただけないでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） ちょっとこのことについては、以前は松沢委員からそういう御質問ありましたから、舛添知事、それから森組織委員長と話したこともありましたが、そのようなことはおっしゃっておりませんでしたか……

○松沢成文君 最近の話です、最近の話。

○国務大臣（下村博文君） 最近の話ということですので、何かの機会に今日の国会質問を踏まえて、しかし先ほど、国会質問は物すごい影響力あるというような田村委員から話もありましたが、客観的なこういう、客観的かどうか分かりませんが、日本ゴルフ改革会議ですか、この資料を御覧になったかどうかということについては、何かの機会の際に話をしたいと思います。

○松沢成文君 何かの機会と言わずに、これはできるだけ早めに、六

月にはまた I O C の全体の決定もあるわけですから、一度是非とも相談をして、再検討いただきたいということをお願いしておきたいと思
います。

次に、セーリングの競技会場なんですけれども、セーリングも、こ
れ若洲、あのゴルフ場の近くですね、行われることになっていたんで
すが、先般のニュースで、これ羽田空港の特別管制区内にあるという
ことなので、ここは、若洲はできないということで、これもう一度決
め直しだということになりまして、私の地元の神奈川県の江の島と愛
知県の蒲郡だったけなど、あと千葉県と、三つの中からまた選び直す
ということになったんですが。これちょっと私不思議なのは、これ羽
田空港の特別管制区内にある、つまり空からヘリコプターで撮影する
のが羽田空港の管制区域に掛かってそれができなくなるというんです
が、これはもう最初から分かっていたことじゃないかと思うんですね。
なぜ今になって、それが理由でやっぱりセーリングは若洲でできない
ということになるのか、ここが不思議なんですけれども、いかがなん
ででしょうか。

○国務大臣（下村博文君） これについては、東京都に確認したとこ
ろ、立候補時に国際競技連盟の承認を得て若洲オリンピックマリーナ
をセーリング競技の会場として決定した際に、この地域が管制区域内
であることやセーリング競技では一般的に空撮が行われることについ
て認識していたそうではありますが、これらは招致決定後に調整すべ
き課題であると考えていたという答えでありました。

○松沢成文君 これはもう少し初めからきちっと確認をした上で、も
ちろんこれは大臣の責任ではありませんけれども、組織委員会と東京
都ですね、きちっとこれ調整をしておくべきだったというふうに思
います。

それから、これに関連して、実はトライアスロンと水泳のオープン
ウオーター十キロスイミングですね、この会場がお台場の海浜公園に
なっているんですけれども、これ、お台場の海浜公園は、じゃ、この
特別管制区域内じゃないんでしょうか。また、これも、こういうスポ
ーツもみんなヘリコプターからの空撮が最近はほとんどやられている
んですね。トライアスロンなんかは、みんな水泳のときなんかはだあ
っと上から撮影していきます。それを見ているダイナミックで見応
えがあるんですよ。

これは管制区域内じゃないのかということと、あと、ここ、水質の
問題は大丈夫なのかということです。東京湾であるし、ちょっと下水

道の問題があるということでもありますけれども。そういうふうにと考えると、こういうところもまた見直される可能性があるんじゃないでしょうか、いかがでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） これも東京都に確認したところ、トライアスロンはスイム、バイク、ランの三種目から成る競技であり、海面と道路を利用することなどから様々な撮影方法が考えられるため、現在、競技エリアや撮影方法等も踏まえ、競技団体などの関係者と協議しているところであるというふうに聞いております。

また、水質の問題については、平時は心配要らないそうではありますが、これも例えばその前に台風が来るとかということになるといろんな水質の問題が出てくる場合もあり得るということで、競技団体などの関係者と今協議しているところであるというふうに聞いております。

○松沢成文君 このオリンピックの競技会場、今IOCの承認も得てどんどん決めていっているわけですが、やはりコストの面だとか、あるいは安全性の面、環境の面、あるいはレガシーとしてこのオリンピックをここでやったことがまた後世に様々な遺産として残るように、そういう総合的な判断から極めて慎重に今後関係機関と相談をして決めていただきたいと、そのことを要望して質問を終わります。

ありがとうございました。

○委員長（水落敏栄君） 本日の調査はこの程度にとどめます。